

いなどみ ろくたんだ いせき
稲富・六反田遺跡

ふくおかけん や め し いなどみ
福岡県八女市稲富所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第85集

2009

八女市教育委員会

序

八女市の中心部にあります福島城は元和元年（1615）廃城になりましたが、城の痕跡は今も内堀、中堀、外堀に往時の姿がよく残っています。

福島城の南西にある稲富地区は都市計画街路が東西、南北に走り、交通のアクセスが良いためか最近になって開発が急速に進み、住宅が相次いで建設されています。これに伴ってこの地区における埋蔵文化財の試掘調査も増加していますが、比較的文化財の所在が少ない地区でした。しかし、今回の発掘調査は店舗の建設に伴い中世の遺跡が発見されたため、建設前に発掘調査したものです。

発掘調査の実施にあたりましてフジホーム株式会社（代表取締役大藤義裕）はじめ、関係各位に終始ご協力いただき、心から感謝申し上げます。

平成21年3月31日

八女市教育委員会

教育長 中島 清志

例言

- 1 本書は八女市教育委員会が八女郡広川町新代フジホーム株式会社（代表取締役大藤義裕）の委託を受けて実施した福岡県八女市稲富字六反田所在、稲富・六反田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成19年度に八女市教育委員会が主体となり実施した。なお、出土した遺物については、平成20年度に岩戸山歴史資料館で整理を行い保管している。
- 3 遺構の実測は参加者で行い、写真は赤崎が撮影した。なお、空中写真は（有）空中写真企画に委託して撮影したものである。
- 4 遺構の実測は、国土地理院の設定する第Ⅱ座標系を基準としている。
- 5 本書の執筆、編集は赤崎が行った。

本文目次

1 はじめに	1
2 位置と環境	4
3 調査経過	4
4 遺構と遺物	6
5 まとめ	22

挿図目次

第 1 図 稲富・六反田遺跡と周辺の遺跡分布図 [1/25,000]	2
第 2 図 稲富・六反田遺跡調査位置図 [1/2,500]	3
第 3 図 稲富・六反田遺跡遺構配置図 [1/400]	5
第 4 図 竪穴住居 (SB01)・掘立柱建物 (SB02、03) 実測図 [1/60]	7
第 5 図 井戸 (SE01、02) 実測図 [1/60]	8
第 6 図 井戸 (SE03、04) 実測図 [1/60]	9
第 7 図 土壌 (SK01~27) 実測図 [1/60]	11
第 8 図 土壌 (SK28~36) 実測図 [1/60]	12
第 9 図 不明遺構 (SX01~08) 実測図 [1/60]	14
第 10 図 竪穴住居 (SB01)・井戸 (SE01~04) 出土土器実測図	17
第 11 図 土壌 (SK01、21、26、27、29)・pit・不明遺構 (SX01、02)・ 溝 (SD04・07) 出土土器実測図 [1/4]	18
第 12 図 不明遺構 (SX02) 出土土製品実測図 [1/2]	18
第 13 図 井戸 (SE03)・pit 出土鉄製品実測図 [1/2]	18
表紙写真 稲富・六反田遺跡全景 [北から] 裏表紙写真 SE03 出土布 (漆塗)	

表 目 次

表 1 SB、SE、SK、pit、SX、SD 出土土器一覧表①②③	19~21
表 2 SX 出土土製品一覧表	21
表 3 SE、pit 出土鉄製品一覧表	21

図版目次

- 図版 1 (1)調査前風景(北東から) (2)調査前風景(南から)
- 図版 2 (1)調査区全景航空写真 (2)調査区全景航空写真
- 図版 3 (1)SB01(西から) (2)SB02(北西から)
- 図版 4 (1)SB02(東から) (2)SB03(北から)
- 図版 5 (1)SE01・02・03[奥] 04(東から) (2)SE01・04[手前] (北西から)
(3)SE01土層断面 (4)SE01土層断面
- 図版 6 (1)SE02 (2)SE02 (3)SE02 (4)SE02土層断面
- 図版 7 (1)SE03 (2)SE03遺物出土状況
(3)SE03遺物出土状況 (4)SE03土層断面
- 図版 8 (1)SE03土層断面 (2)SE03 (3)SE03 (4)SE04土層断面
- 図版 9 (1)SK01 (2)SK02 (3)SK03 (4)SK04
- 図版10 (1)SK05 (2)SK06 (3)SK07 (4)SK08
- 図版11 (1)SK09 (2)SK10[右]・SK11[左]
(3)SK12 (4)SK13
- 図版12 (1)SK14 (2)SK15 (3)SK16 (4)SK17
- 図版13 (1)SK18 (2)SK19 (3)SK20[右]・SK21[左] (4)SK22
- 図版14 (1)SK23 (2)SK24 (3)SK25 (4)SK26
- 図版15 (1)SK27 (2)SK28 (3)SK30 (4)SK31
- 図版16 (1)SK32 (2)SK33 (3)SK34 (4)SK35
- 図版17 (1)SK36 (2)SX01 (3)SX02 (4)SX03
- 図版18 (1)SX04 (2)SX05 (3)SX06 (4)SX07
- 図版19 (1)SX08 (2)SD01
(3)SD02、SK01・02 (4)SD02銅銭出土状況
- 図版20 (1)SD07 (2)SD08
- 図版21 (1)SD10、SK35、SX08[奥] (2)SD08・09・10・11

1 はじめに

稲富・六反田遺跡は福岡県八女市稲富字蔵ノ町130番地2ほか16筆に所在する。しかし、今回の調査は16筆の内稲富字六反田が中心であったため、本遺跡の名称として用いた。

調査の発端は、フジホーム株式会社が市道の西側隣接地9,744㎡に店舗を建設する計画がなされたことによる。当該地は、福島城、一竿遺跡が近接地のため弥生時代の遺跡等の存在が予想されたため、試掘調査を行う事となった。平成19年6月6日に行った試掘調査によって、南北に延びる溝や多数のピットが発見され、歴史時代の遺構が広がっていると推定された。このため開発にあたっては両者が協議を重ね、建物建設によって削平される部分約3,000㎡の調査を実施する事とし、平成19年7月27日付けで発掘届が提出された。発掘届の提出により平成19年10月10日付けで「埋蔵文化財発掘委託契約書」を締結した。

調査は平成19年10月12日に開始、天候にも恵まれ平成20年2月1日、現地での発掘調査は終了した。引き続き平成20年度は平成21年2月2日付けで「埋蔵文化財発掘委託契約書」締結し、整理と報告書の作成を行った。

平成19・20年度の調査関係者は次のとおりである。

【平成19年度】

発掘調査委託フジホーム株式会社

代表取締役 大藤 義裕

八女市教育委員会

教育長 中島 清志

社会教育課課長 飯田せつ子

社会教育課課長補佐 松崎 保元

社会教育課文化財係長 赤崎 敏男

同係員 中川寿賀子

大塚 恵治

同嘱託 立石 真治（10月1日から平成20年3月31日まで）

【平成20年度】

発掘調査委託フジホーム株式会社

代表取締役 大藤 義裕

八女市教育委員会

教育長 中島 清志

社会教育課課長 飯田せつ子

社会教育課参事補佐 松崎 保元

〃 江崎 邦博

社会教育課文化財係長 赤崎 敏男

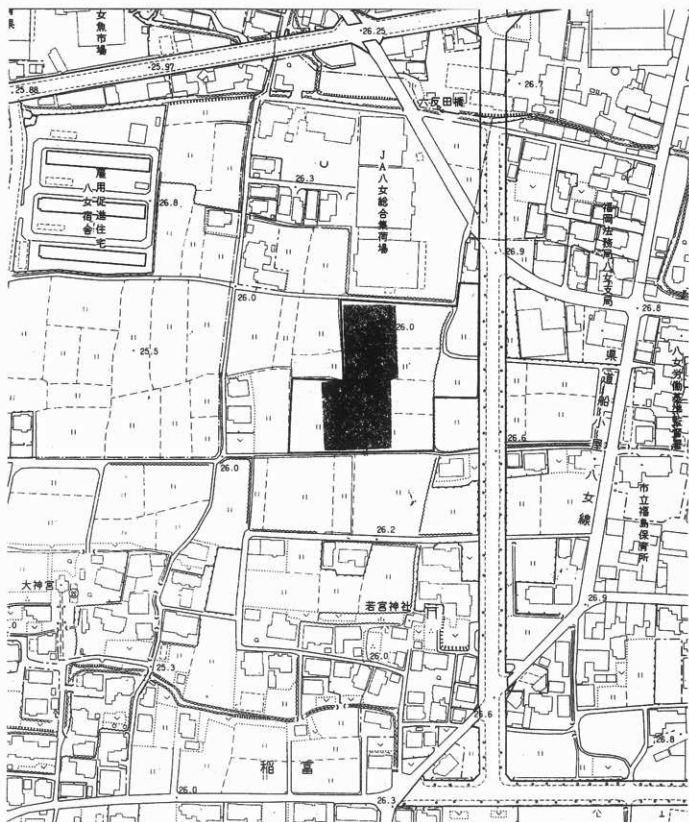
同係員 中川寿賀子

大塚 恵治



第1図 稲富・六反田遺跡と周辺の遺跡分布図 [1/25,000]

- | | | |
|---------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 1 稲富・六反田遺跡 | 2 岩戸山古墳 | 3 国道442号八女筑後バイパス室岡・山ノ上遺跡 |
| 4 国道442号八女筑後バイパス亀ノ山・山ノ上遺跡 | 5 国道442号八女筑後バイパス後田遺跡 | |
| 6 国道442号八女筑後バイパス亀ノ甲・植初遺跡 | 7 国道442号八女筑後バイパス蒲原・植初遺跡 | |
| 8 惣津町遺跡 | 9 岡山小学校校庭遺跡 | 10 一竿遺跡 |
| 11 立野・大坪遺跡 | | |
| 12 篠原遺跡 | 13 鍛冶屋遺跡 | 14 新庄・六反田遺跡 |
| 15 深田遺跡、京田遺跡 | | |
| 16 二反田遺跡、宮ノ前遺跡 | 17 茶ノ木ノ本遺跡 | |



第2図 稲富・六反田遺跡調査位置図〔1/2,500〕

2 位置と環境

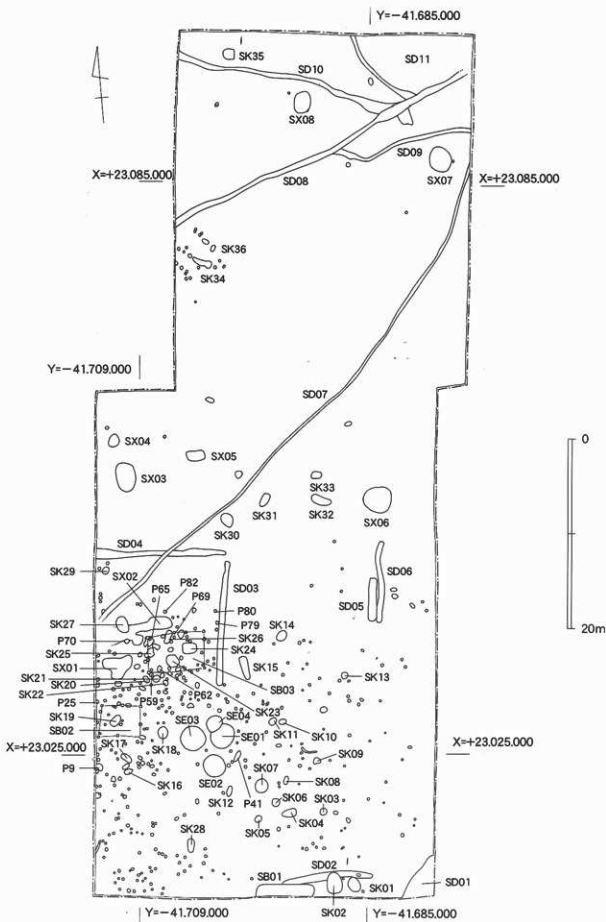
稲富・六反田遺跡は八女市稲富字六反田に所在する遺跡で、南側が稲富遺跡群として八女市文化財等分布地図に登録されている。遺跡は一帯に広がる沖積平野が南側に向かって緩やかに下がる、標高約25m前後の平地上に位置している。

遺跡周辺は発掘前にはほとんど遺跡の存在は知られていなかったが、東側200mには福島城の外堀が、西500mには平成8、10、18年と3回の調査を行った一竿遺跡があり、弥生時代の竪穴住居や貯蔵穴が数多く発見されている。

3 調査経過

(作業日誌)

- 平成19年10月12日 発掘前の写真撮影。調査区の縄張り。
15日 器材搬入。
18日 大型バックホー入れる。
19日 南側より遺構検出開始し竪穴、柱穴検出。作業員導入。
24日 西側遺構の検出により、溝、竪穴、大型土壙(井戸?)確認。
大型土壙(井戸?)から須恵器鉢出土。
- 11月 1日 溝、竪穴、井戸掘り下げ続ける。
8日 遺構掘り下げ続ける。南側平板測量開始。
13日 井戸群の掘り下げ続ける。SE03出土土器写真と実測。
15日 SE02、01井戸群の掘り下げ続ける。
21日 井戸群の写真と実測。
29日 SE01土層図作成。各遺構の掘り下げ続ける。
- 12月 3日 柱穴の掘り下げ続ける。
10日 柱穴、溝の掘り下げ。
17日 土壙、柱穴、溝の掘り下げ。各遺構の写真撮影。
20日 井戸実測。1/20実測図作成。
26日 1/20実測図作成。不明土壙掘り下げ。
- 平成20年 1月 7日 1/20実測。写真撮影のため清掃。
8日 北側写真撮影。1/20実測を続ける。
15日 空中写真撮影。北側1/20実測を続ける。
16日 レベル記入開始。
31日 実測図等の点検。
- 2月 1日 柱穴等の撮影。器材撤去等本日で現地調査終了。



第3図 稲富・六反田遺跡遺構配置図〔1/400〕

4 遺構と遺物

発掘調査の結果、鎌倉時代と江戸時代の遺構が調査区の南側で集中して発見された。

竪穴住居（SB）

南端で1軒を検出した。大半は調査区外のため不明である。

SB01（第4・10図・図版3）

東西の長さ6.0m、南北の長さ $1.5+\alpha$ m、長方形の竪穴住居である。床面まで壁は10cm前後残り、床面は平坦であるが東側が5cm程低くなる。直径15cm、深さ4cmのピットが1個存在するが柱とは考え難い。遺物は出土していないが僅かに炭化物が検出された。

掘立柱建物（SB）

今回の調査では調査区の南西部にピットが集中して発見された。柱穴としてまとまるものは少なく、2棟の掘立柱建物を確認している。

SB02（第4図・図版3・4）

調査区の西端で発見された2間×1間の掘立柱建物である。東西の北側桁行長さ4.1m、柱間は2.1mと2.0m、東西の南側桁行長さ4.5m、柱間は2.1mと2.4m、南北で東西の西側桁行長さ3.3m、東西の東側桁行長さ3.15mで東西棟の建物である。柱穴は直径25-30cm、深さ30-45cmで円形を呈している。

SB03（第4図・図版4）

調査区の西端で発見された2間×1間の掘立柱建物である。東西の北側桁行長さ6.0m、柱間は3.0mと3.0m、東西の南側桁行長さ5.9m、柱間は2.4mと3.5m、南北で東西の西側桁行長さ3.7m、東西の東側桁行長さ3.9mで東西棟の建物である。柱穴は直径25-30cm、深さ30-45cmで円形を呈している。

井戸（SE）

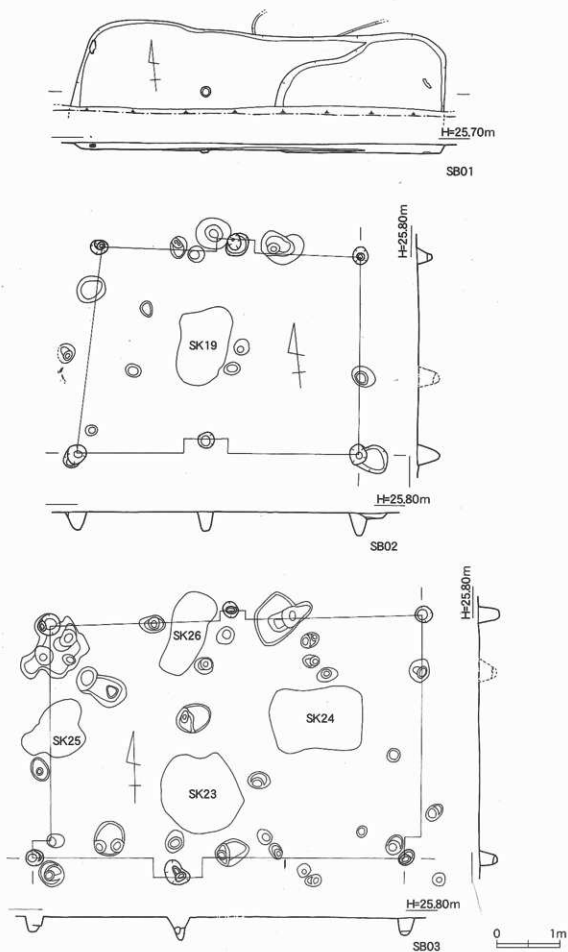
調査区の南側に集中して4基の井戸が発見された。そのうち1基は途中で掘削を中止している。

SE01（第5・10図・図版5）

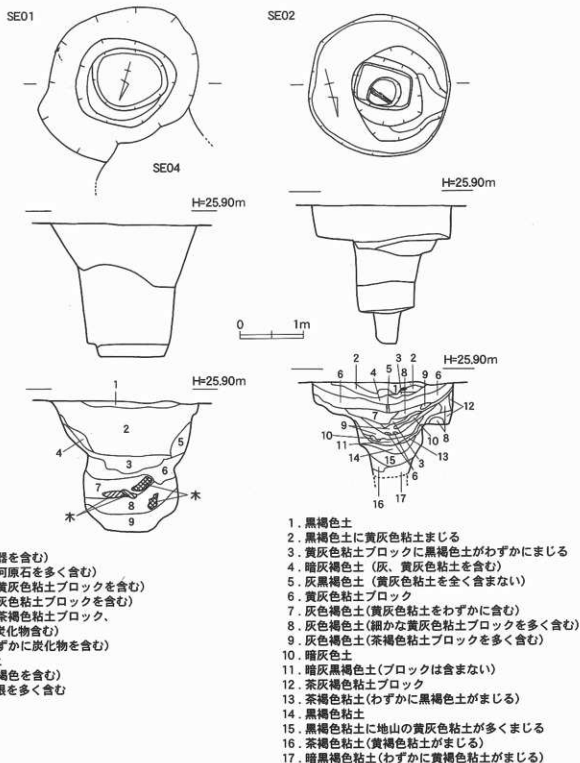
井戸群の東側にありSE04と切り合っている。上部の掘りかたは直径2.4mの円形で、井戸下部の直径1.3m、深さ2.1mで井戸底は粘土層下の砂礫層まで達している。井戸内の堆積土は最も下層に葉を多く含む灰褐色土、その上層に木や河原石を多く含む黒褐色土が厚く堆積している。壁には石組みの形跡検出できなかったが、埋土中から多くの河原石が発見されたため、石組みの井戸と考えられる。また、埋土中から大量の木枝などが発見され、長期間にわたって放置されていたと思われる。遺物として土師器皿、白磁、青磁、須恵質鉢が出土している。

SE02（第5・10図・図版5・6）

井戸群の南側にあり、上部の掘りかたは直径2.2mの円形で、掘り方から50cm下の中央に長さ0.9m、



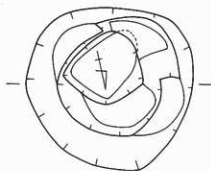
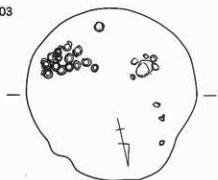
第4図 竪穴住居 (SB01)・掘立柱建物 (SB02、03) 実測図 (1/60)



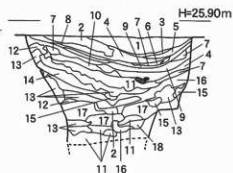
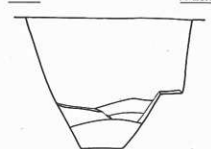
第5図 井戸(SE01、02)実測図〔1/60〕

幅0.65mの方形の井戸が深さ1.1mまで掘削され、さらに直径50cm、深さ50cmまで円形に掘削されている。円形坑の途中には両壁を支える木棒が渡されている。下部の直径は0.35mで井戸底までは掘削できなかったが、井戸底は粘土層下の砂礫層まで達している。井戸は素堀で円形を掘削後、中央に方形の木組みを行い木組みの下には曲げ物を据え、曲げ物には横木を渡して倒壊を防ぐ工夫を行なったと考えられる。土層の観察から上面から約1mほど地山である茶褐色粘土で埋め戻した形跡がみられ、井戸の廃棄後すぐに埋められたものと考えられる。遺物として土師器皿、白磁、青磁、須恵質鉢が出土している。

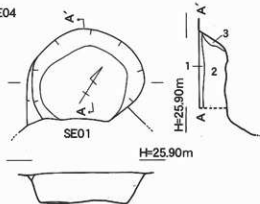
SE03



H=25.90m



SE04



0 1m

1. 灰黒色土
2. 黒褐色土
(土器含む)
3. 黒褐色土
(黄灰色ブロックを
含む)

1. 黒褐色土(土器を含む)
2. 黄灰色粘土ブロック(黒褐色土をわずかに含む)
3. 灰色
4. 黒褐色土(炭化物と黄灰色粘土ブロックをわずかに含む)
5. 黒褐色土(黄褐色粘土、炭化物をわずかに含む)
6. 黒褐色土と灰(炭化物多く含む)
7. 黒褐色土(黄灰色粘土ブロック多く含む)
8. 黄褐色粘土と黒褐色粘土まじり
9. 黒褐色土(炭化物、黄灰色粘土ブロックをやや多く含む)
10. 黒褐色土(黄褐色ブロックを多く含む)
11. 黄灰色粘土
12. 黒褐色土
13. 黄褐色粘土
14. 黄灰色粘土と黒褐色粘土まじり
15. 黄灰色粘土ブロック
16. 黄灰色粘土(黒褐色まじる)
17. 黄灰色粘土(黒褐色粘土多く含む)
18. 黄褐色粘土

第6図 井戸(SE03、04)実測図〔1/60〕

SE03 (第6・10・13図・図版5・7・8)

井戸群の西側にあり、上部の掘り方は直径2.7mの円形で、上面から1.2m下の中央に長さ1.9m、幅1.2mの方形の井戸が深さ1.1mまで掘削されている。さらに直径50cm、深さ50cmまで円形に掘削されている。井戸は素堀で円形を掘削後、中央に方形の木組みを行っていたと思われる。木組の下は明確ではないが曲げ物を使用していたとも考えられる。土層の観察から井戸上層の埋土に灰や焼土、炭化物が大量に混じっており、廃棄後すぐに井戸中程まで埋められ後、ゴミ等の廃棄ため使用されたものと考えられ

る。上層から土師器皿が完形で20枚ほど並んで出土し井戸に対して何らかの祭祀があったものと思われ、遺物として土師器皿、白磁、青磁、須恵質鉢、鉄器、布（漆塗り）が出土している。

SE04（第6・10図・図版5・8）

SE01と切り合っている直径1.8mの井戸で、深さ45cmのところで掘削を中止している。遺物として土師器皿、須恵質鉢がわずかに出土している。

土壌（SK）

今回の調査では合計36基の土壌を確認した。土壌の多くは掘立柱建物周辺と井戸周辺に発見されている。

SK01（第7・11図・図版9・19）

隅丸方形で長さ1.4m、幅1.3mの土壌、深さ5cm。遺物として土師器皿が出土している。

SK02（第7図・図版9・19）

隅丸方形で長さ2.25m、幅1.65mの土壌、深さ20cm。遺物は出土しなかった。

SK03（第7図・図版9）

ほぼ方形で長さ0.8m、幅0.75mの土壌、深さ10cm。遺物は出土しなかった。

SK04（第7図・図版9）

隅丸長方形で長さ1.5m、幅0.8mの土壌、深さ5cm。遺物は出土しなかった。

SK05（第7図・図版10）

方形で長さ0.7m、幅0.7mの土壌で、深さ10cm。遺物は出土しなかった。

SK06（第7図・図版10）

ほぼ円形で直径0.9mの土壌で、深さ10-15cm。遺物は出土しなかった。

SK07（第7図・図版10）

隅丸方形で長さ1.2m、幅1.2の土壌で、深さ6cm。遺物は出土しなかった。

SK08（第7図・図版10）

隅丸長方形で長さ0.85m、幅0.45の土壌で、深さ15cm。中央に直径15cm、深さ3cmのビット。遺物は出土しなかった。

SK09（第7図・図版11）

いびつな方形で長さ0.85m、幅0.7の土壌で、深さ11-16cm。遺物は出土しなかった。

SK10（第7図・図版11）

円形で直径0.9mの土壌で、深さ15cm。遺物は出土しなかった。

SK11（第7図・図版11）

隅丸方形で長さ0.95m、幅0.75mの土壌で、深さ10cm。遺物は出土しなかった。

SK12（第7図・図版11）

隅丸長方形で長さ1.15m、幅0.7mの土壌で、深さ6cm。遺物は出土しなかった。

SK13（第7図・図版11）

隅丸方形で長さ0.7m、幅0.65mの土壌で、深さ25cm。遺物は出土しなかった。

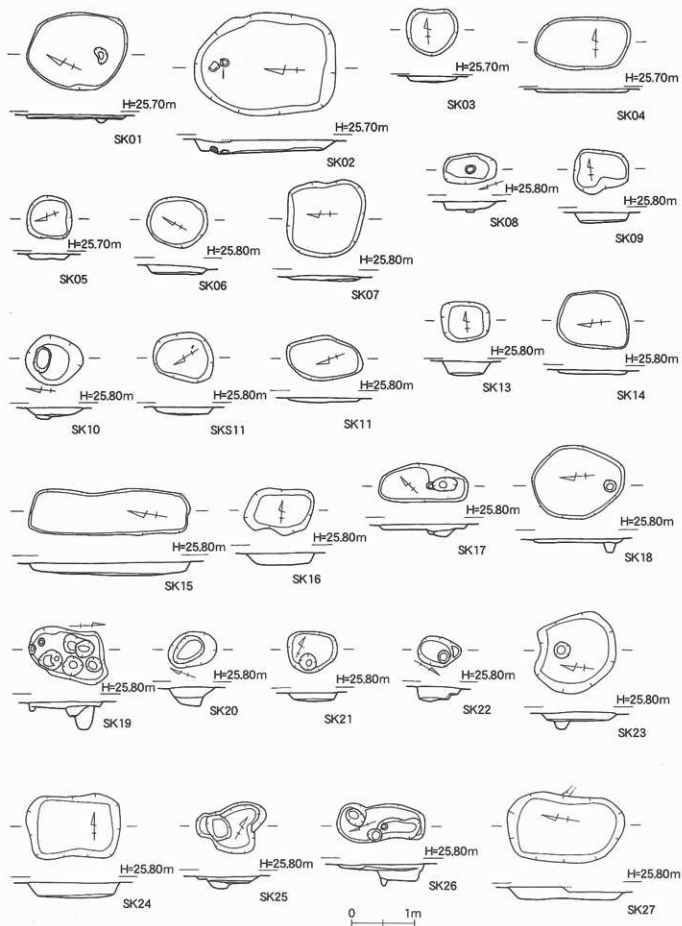
SK14（第7図・図版12）

隅丸長方形で長さ1.1m、幅0.9mの土壌で、深さ5cm。遺物は出土しなかった。

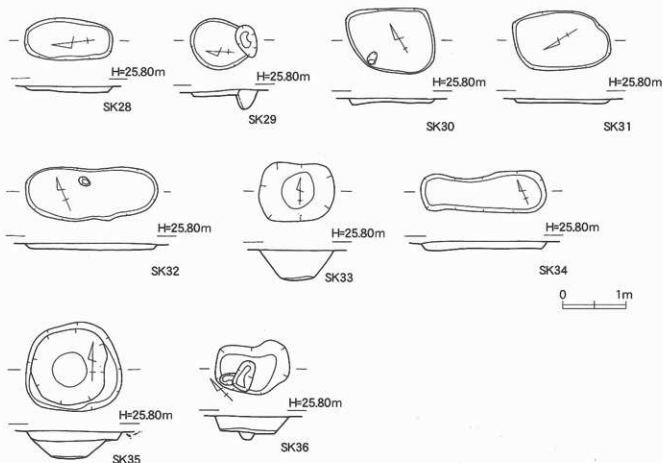
SK15（第7図・図版12）

隅丸長方形で長さ2.55m、幅0.7mの土壌で、深さ10-18cm。遺物は出土しなかった。

SK16（第7図・図版12）



第7図 土坑 (SK01~27) 実測図 [1/60]



第8図 土坑 (SK28~36) 実測図 (1/60)

隅丸長方形で長さ1.05m、幅0.7mの土坑で、深さ20cm。遺物は出土しなかった。

SK17 (第7図・図版12)

隅丸長方形で長さ1.4m、幅0.6mの土坑で、深さ15cm。遺物は出土しなかった。

SK18 (第7図・図版13)

楕円形で長さ1.6m、幅1.3mの土坑で、深さ5cm。遺物は出土しなかった。

SK19 (第7図・図版13)

隅丸長方形で長さ1.2m、幅0.75mの土坑で、深さ10cm。床面には直径10-30cmのビットが多数存在している。遺物は出土しなかった。

SK20 (第7図・図版13)

楕円形で長さ0.75m、幅0.7mの土坑で、深さ30cm。遺物は出土しなかった。

SK21 (第7・11図・図版13)

隅丸長方形で長さ0.8m、幅0.65mの土坑で、深さ30cm。床面南寄りに直径20×25cmのビット。遺物として土師器皿が出土している。

SK22 (第7図・図版13)

隅丸方形で長さ0.55m、幅0.5の土坑で、深さ23cm。遺物は出土しなかった。

SK23 (第7図・図版14)

いびつな円形で長さ1.3m、幅1.2mの土坑で、深さ12cm、床面に直径20cm、深さ13cmのビット。遺物は出土しなかった。

SK24 (第7図・図版14)

隅丸長方形で長さ1.45m、幅0.95mの土壌で、深さ23cm。遺物は出土しなかった。

SK25 (第7図・図版14)

不整形で長さ1.0m、幅0.85mの土壌で、深さ20cm。遺物は出土しなかった。

SK26 (第7・11図・図版14)

隅丸長方形で長さ1.35m、幅0.6mの土壌で、深さ25cm。遺物として土師器皿が出土している。

SK27 (第7・11図・図版15)

隅丸長方形で長さ1.8m、幅1.05mの土壌で、深さ15cm。遺物として土師器皿が出土している。

SK28 (第8図・図版15)

隅丸長方形で長さ1.4m、幅0.65mの土壌で、深さ10cm。遺物は出土しなかった。

SK29 (第8・11図)

ほぼ円形で長さ0.85m、幅0.8mの土壌で、深さ5cm。遺物は青磁碗が出土している。

SK30 (第8図・図版15)

隅丸長方形で長さ1.4m、幅1.0mの土壌で、深さ10cm、床面中央に直径20cmと30cmのビット。遺物は出土しなかった。

SK31 (第8図・図版15)

隅丸長方形で長さ1.4m、幅0.95mの土壌で、深さ5cm。遺物は出土しなかった。

SK32 (第8図・図版16)

隅丸長方形で長さ2.1m、幅0.8の土壌で、深さ10cm。遺物は出土しなかった。

SK33 (第8図・図版16)

隅丸長方形で長さ1.15m、幅0.7の土壌で、底部はすり鉢上になり深さ50cm。遺物は出土しなかった。

SK34 (第8図・図版16)

隅丸長方形で長さ2.0m、幅0.65の土壌で、深さ12cm。遺物は出土しなかった。

SK35 (第8図・図版16・21)

隅丸方形で長さ1.5m、幅1.4の土壌で、底部はすり鉢上になり深さ45cm。遺物は出土しなかった。

SK36 (第8図・図版17)

隅丸長方形で長さ1.15m、幅0.75mの土壌で、深さ25cm。遺物は出土しなかった。

溝 (SD)

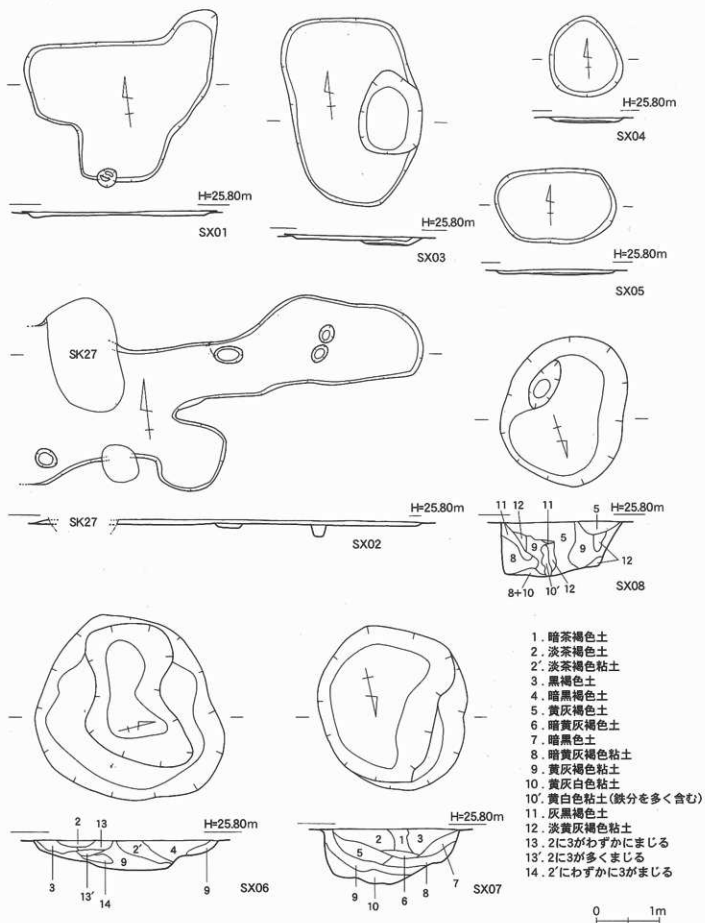
調査区のほぼ全域から溝11条が発見された。掘立柱建物やビット群を囲む溝 (SD03, 04)、南端で発見され「寛永通宝」を出土したSD02、一部の調査ではあるが大型の溝と考えられるSD01を除くと溝方向もまちまちで幅も狭い。

SD01 (図版19)

調査区の南東隅に一部発見され北東—南西方向に延びる溝と考えられる。幅は $1.7 + a$ mで、深さ60cm (底面標高24.59m)、溝内からは土師器の小片がわずかに出土している。

SD02 (図版19)

調査区南端に発見され東西に延びる溝で9.5m検出し、東側は削平により消滅する。溝の幅は東側で0.6m、西側で0.95m、深さは東側で2cm (底面標高25.63m)、西側で3cm (底面標高25.57m) と



第9図 不明遺構 (SX01~08) 実測図 (1/60)

西側が少し低い。溝内からは寛永通宝30枚が紐に繋がれた状態で出土している。

SD03

掘立柱建物、ピット群の東に接して発見され、井戸付近から始まり北側に直線に延びる溝で13m検出した。北側端の溝幅は0.50m、南側で0.60m、深さは北側で5cm（底面標高25.64m）、南側で15cm（底面標高25.53m）と南側が少し低い。溝内からは土師器小片、青磁片がわずかに出土している。

SD04（第11図）

掘立柱建物、ピット群の北に接して発見され、SD03の北端付近から始まり西側に直線に延びる溝で14m検出したがさらに西側に延びている。東側端の溝幅は0.40m、西側で1.20m、深さは東側で7cm（底面標高25.62m）、西側で31cm（底面標高25.37m）と西側が低い。溝内からは土師器皿が出土している。

SD05

SD05は06と並行して調査区東端で発見された北—南に直線に延びる溝で4.5m検出した。溝の幅は北側で0.65m、南側で0.95m、深さは北側で3cm（底面標高25.62m）、南側で4cm（底面標高25.69m）と北側が少し低い。遺物は出土していない。

SD06

SD06は05と並行して調査区東端で発見された北—南に緩く湾曲して延びる溝で8m検出した。溝の幅は北側で0.55m、南側で0.6m、深さは北側で7cm（底面標高25.62m）、南側で7cm（底面標高25.65m）とわずかに北側が低い。遺物は出土していない。

SD07（第11図・図版20）

調査区の北を北東—南西方向に斜めに延びる溝で63m検出した。溝の幅は南西側で0.45m、深さは16cm（底面標高25.55m）、中間部分で溝の幅は0.25m、深さは6cm（底面標高25.66m）、北東側で溝の幅は0.35m、深さは8cm（底面標高25.66m）。遺物は土師器皿が出土している。

SD08（図版20・21）

調査区北端に発見され南西から北東に直線に延びる溝で途中SD09・10・11と合流する。25.5m検出した。溝の幅は南西側で0.6m、北東側で0.7m、深さは南西側で12cm（底面標高25.50m）、北東側で10cm（底面標高25.52m）、北東側から約10m付近はSD10・11と合流し溝の幅は1.5m、深さ13cm（底面標高25.48m）となる。溝内から遺物は出土していない。

SD09（図版21）

SD08の途中より分かれ、東西に延びる溝で14m検出した。北側端の溝幅は北側で0.55m、南側で0.45m、深さは北側で16cm（底面標高25.56m）、南側で10cm（底面標高25.60m）と南側が少し低い。溝内からは遺物は出土しなかった。

SD10（図版21）

調査区の北端から東西に延びる溝で23m検出した。溝の幅は西側で0.7m、深さは42cm（底面標高25.60m）、溝内からは土師器小片が出土している。

SD11（図版21）

調査区北端に発見され北から南に延びる溝で9m検出し、SD08と合流した。溝の幅は北側で0.40m、南側で0.70m、深さは北側で24cm（底面標高25.50m）、南側で70cm（底面標高25.54m）と北側が少し低い。遺物は出土しなかった。

ピット群 (pit)

調査区の南西、溝 (SD) に囲まれた地点を中心に多数ピット群が発見された。ピットは特に溝 (SD 03, 04) に囲まれた部分や井戸の周辺から数多く、直径20-40cm、深さも50cmを越し、また、西端のピット内埋土には焼土を含むものもあり、柱穴と考えられるピットも多いがまとまるものは少ない。遺物として土師器皿、小皿、須恵質鉢、鉄鍔片、鉄刀片が出土している。

不明遺構 (SX)

調査区の中央から北側にいわゆる「風倒木痕」と言われている遺構や性格が不明な遺構8基を確認している。

SX01 (第9・11図・図版17)

SB03の西側に隣接しており、長さ2.95m、幅2.2mのやや歪な長方形の土壌。深5cmで床面は少し凹凸がある。土層を見ると中央部に地山の黄灰色粘土が盛り上がり、両側に暗黒色土が入り込んでいる。遺物として土師器小皿、瓦器質鉢が出土している。

SX02 (第9・11・12図・図版17)

SB03の北側に隣接しており、長さ約5m、幅0.9-1.3mの歪な長方形の土壌。深5cm程で床面は少し凹凸がある。遺物として土師器皿、土師質の土鍔が出土している。

SX03 (第9図・図版17)

楕円形で主軸はほぼ南北、長さ3.0m、幅2.0mの土壌で、深さ5cm。床面東側に長さ1.2m、幅0.9m、深さ8cmの落ち込みがある。遺物は出土していない。

SX04 (第9図・図版18)

楕円形で長さ1.25m、幅1.2mの土壌で、深さ5cm、床面は平坦となる。遺物は出土していない。

SX05 (第9図・図版18)

隅丸長方形で主軸はほぼ東西、長さ1.9m、幅1.2mの土壌で、深さ5cmで床面は平坦である。遺物は出土していない。

SX06 (第9図・図版18)

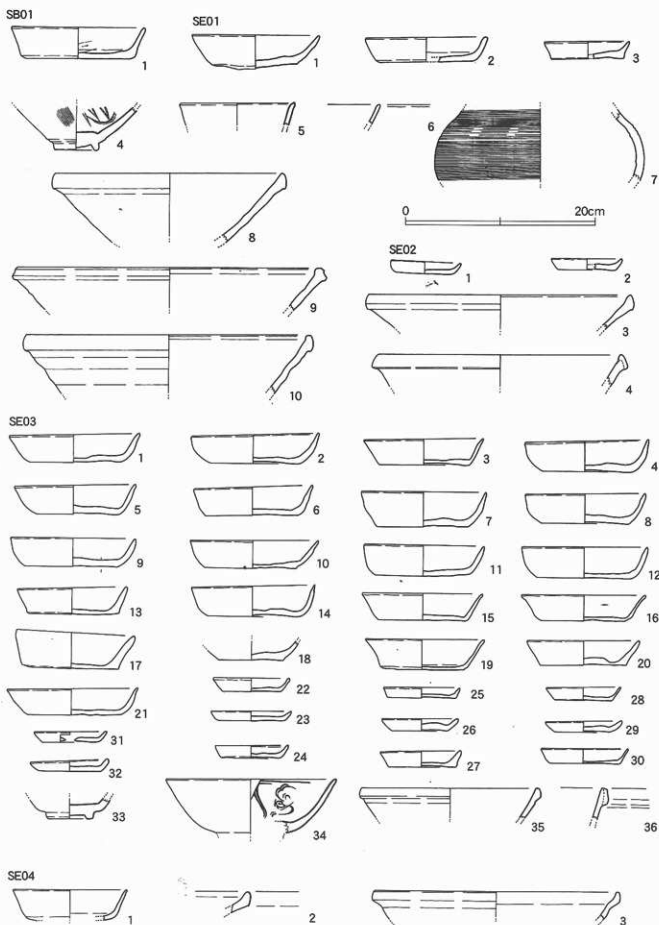
長さ2.9m、幅2.9mのやや歪な円形の土壌である。深さ45cm、床面は少し凹凸がありすり鉢状となる。土層を見ると中央部に地山の黄灰色粘土が盛り上がり、両側に暗黒色土が入り込んでいる。遺物は出土していない。

SX07 (第9図・図版18)

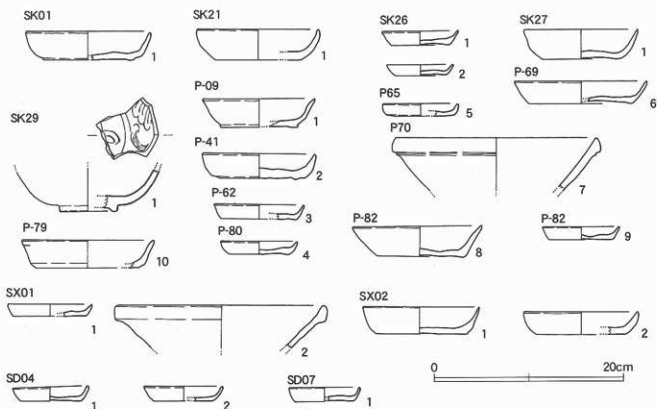
楕円形の長さ2.7m、幅2.3mの土壌で、深さ95cm。床面は少し凹凸がある。土層を見ると中央部に暗茶褐色土が盛り上がり、黒褐色土が入り込んでいる。遺物は出土していない。

SX08 (第9図・図版19・21)

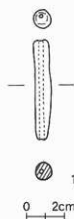
楕円形の長さ2.35m、幅1.95mの土壌で、深さ85cm。床面は少し凹凸がある。土層を見ると中央部に地山の黄灰色粘土が複雑に盛り上がり、灰黒褐色土が入り込んでいる。遺物は出土していない。



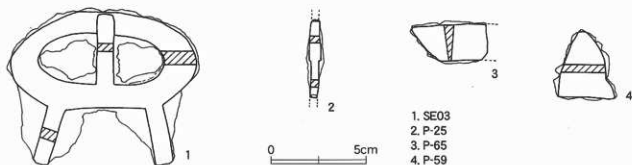
第10図 竪穴住居 (SB01)・井戸 (SE01~04) 出土土器実測図 [1/4]



第11図 土壙 (SK01、21、26、27、29)・pit・不明遺構 (SX01、02)・溝 (SD04・07) 出土土器実測図 (1/4)



第12図 不明遺構 (SX02) 出土土製品実測図 (1/2)



第13図 井戸 (SE03)・pit 出土鉄製品実測図 (1/2)

表1 SB、SE、SK、pit、SX、SD 出土土器一覧表①

採掘 番号	出土 遺物 番号	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	調整		備考
									外面	内面	
第10回	SB01	1 土師器 坏(3/4片)	14	10.9	3.3	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	黄赤褐色/淡黄褐色	やや不良	不明(摩耗)、糸切り痕わずかに残る	不明、ナデ	
	SE01	1 土師器 皿 (11/16片-口縁部欠損)	13.5	9	3.4	砂粒を含む。	淡黄褐色～淡灰褐色	やや不良	ヨコナデ、糸切り	ヨコナデ、回転ナデ	
	*	2 土師器 皿(1/4片)	12.6	10.4	2.6	細砂粒を含む。赤粒子がわずかに混ざる。	淡黄褐色	普通	不明(摩耗)、不明	不明	
	*	3 土師器 小皿(1/2片)	8	7.8	1.8	細砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、糸切り(摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
	*	4 青磁 埴(底部片)		4.6		精選されている。	灰色の胎に淡緑色の釉がかかる	良好	施釉、回転へう刷り、刷毛、 施釉工具による文様有り	刷状工具によるジグザグ文様・片切り彫文様 有り	内・外 貫入有り
	*	5 青磁 埴(口縁部片)	12			細砂粒を含むが精選されている。	灰色の胎に淡緑色の釉がかかる	良好	施釉	施釉	内・外 貫入有り
	*	6 瓦器 埴(口縁部断片)				細砂粒を含む。	黒灰褐色	やや不良	不明	ヨコナデ	
	*	7 須恵器 長頸壺 (胴中央部片)				精選されている。	暗灰褐色/淡茶褐色	良好	カキ目、浅い沈線	ヨコナデ	
	*	8 須恵器 鉢(口縁部片)	24			砂粒を含む。やや精選されている。	灰色(口縁部、肩部に黒色の自然釉がかかる。)	良好	自然、釉がかかる。ヨコナデ	ヨコナデ	
	*	9 須恵器 鉢(口縁部片)	32			細砂を含むが精選されている。	灰色(口縁部、肩部に黒灰色の自然釉がかかる。)	良好	自然釉がかかる。ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
	*	10 須恵器 鉢(口縁部片)	30			1～5mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	灰色 (口縁部一部灰黒色残る。)	良好	ヨコナデ(摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
	SE02	1 土師器 小皿(1/2片)	7.4	6.2	1.3	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	淡黄褐色	不良	不明、糸切り(摩耗)	不明	
	*	2 土師器 小皿(口縁部片)	7.4	6	1.2	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	淡黄褐色	不良	不明	不明	
	*	3 須恵器 鉢(口縁部片)	27.6			砂粒を含む。	灰色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
SE03	*	4 須恵器 鉢(口縁部片)	25.6			小石が混ざる。砂粒を含む。	灰色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
	1 土師器 皿 (口縁部わずかに欠損)	13.5	9.5	2.9	砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ(摩耗)、回転ナデ(摩耗)	ヨコナデ(摩耗)、糸切り後板状圧痕(摩耗)		
	*	2 土師器 皿 (復原形状一部欠損)	13.3	9.5	3	1～3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ナデ、糸切り	回転ナデ(摩耗)	
	*	3 土師器 皿(一部欠損)	12.6	9.4	2.7	小石が混ざる。赤粒子を含む。	黄赤褐色	やや不良	不明、糸切り	不明	
	*	4 土師器 皿(11/16片)	13.4	9.4	3.2	小石が混ざる。砂粒を含む。	茶褐色	やや不良	ナデ(摩耗)、糸切り(摩耗)	回転ナデ(摩耗)	
	*	5 土師器 皿(口縁部欠損)	12.7	8.8	3	1～5mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	淡茶褐色	普通	ナデ、糸切り	ナデ(摩耗)	
	*	6 土師器 皿(復原形状)	12.5	9.8	2.9	1～4mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	黄褐色/淡黄褐色	やや不良	ナデ(摩耗)、糸切り後板状圧痕	回転ナデ(摩耗)	
	*	7 土師器 皿(4/5片)	13	9.8	3.7	1～3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	茶褐色/茶黄褐色	やや不良	不明、糸切り(摩耗)	不明、回転ナデ	
	*	8 土師器 皿 (復原形状一部欠損)	12.5	9	3.1	1～3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	淡茶褐色	普通	ナデ、糸切り(摩耗)	ヨコナデ、回転ナデ(摩耗)	
	*	9 土師器 皿(復原形状)	13	9.7	2.1	1～4mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	淡茶褐色	普通	ナデ、糸切り	ヨコナデ、回転ナデ	
	*	10 土師器 皿(4/5片)	13.4	9.7	2.9	砂粒を含む。	淡茶褐色	やや不良	ナデ(摩耗)、糸切り後板状圧痕	ナデ(摩耗)	
	*	11 土師器 皿 (復原形状一部欠損)	12.5	9.8	3.2	小石が混ざる。砂粒を含む。	茶褐色	やや不良	ヨコナデ(摩耗)、糸切り(摩耗)	回転ナデ(摩耗)	
	*	12 土師器 皿(4/5片)	13.2	10	3.3	砂粒を含む。	茶褐色	やや不良	ナデ(摩耗)、糸切り(摩耗)	ヨコナデ(摩耗)、回転ナデ(摩耗)	
	*	13 土師器 皿(完形)	11.3	4.8	2.7	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	茶褐色	やや不良	不明、糸切り(摩耗)	ナデ(摩耗)	
	*	14 土師器 皿(完形)	12.8	9.7	3.2	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	茶褐色	不良	ヨコナデ(摩耗)、不明	不明、回転ナデ(摩耗)	

表1 SB、SE、SK、pit、SX、SD 出土土器一覧表②

博物館 番号	出土 遺構	遺物 番号	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	調査		備考
										外面	内面	
第10回	SE03	15	土師器 皿(3/4片)	12.7	9.4	2.8	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	黄茶褐色、内外一部黒褐色有り	やや不良	不明(摩耗)、糸切り後板目圧痕	不明	
		16	土師器 皿(1/2片)	13	8.8	2.7	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	淡黄灰色	不良	不良	不明	
		17	土師器 皿(1/2片)	12.4	10.2	3.8	砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	不明	ナデ(摩耗)	
		18	土師器 皿(底部片)		7		砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	ナデ(摩耗)、糸切り	ナデ	
		19	土師器 皿(3/4片)	12.5	8.7	3.2	1~3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ(摩耗)、糸切り(摩耗)	ヨコナデ(摩耗)、不明	黒底有り、内面スス付着
		20	土師器 皿(1/2片)	13.8	9	2.6	小石が混ざる。砂粒を含む。	淡黄褐色	不良	不明	不明	
		21	土師器 皿 (口縁部半分欠損)	13.7	9.7	2.7	砂粒を含む。	淡茶褐色	やや不良	ヨコナデ(摩耗)、糸切り(摩耗)	ヨコナデ(摩耗)、回転ナデ(摩耗)	
		22	土師器 小皿(2/5片)	8	6.2	1.4	砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り	ナデ	
		23	土師器 小皿(3/5片)	8.3	7	1	砂粒を含む。	茶褐色	やや不良	不明	不明	
		24	土師器 小皿(復原完形)	7.7	6.2	1.3	砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ、糸切り	不明	
		25	土師器 小皿(1/2片)	8	7.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ、糸切りと板状圧痕が わずかに残る	ヨコナデ、ナデ	
		26	土師器 小皿(3/4片)	8	5.9	1.3	細砂粒を含む。	淡黄灰褐色~乳褐色	やや不良	ヨコナデ(摩耗)、糸切り	ヨコナデ、不明	
		27	土師器 小皿(復原完形・ 口縁部一部欠損)	7.4	7.1	1.7	細砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ	
		28	土師器 小皿(復原完形)	7.9	6.2	1.4	砂粒を含む。赤粒子がわずかに 混ざる。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ(摩耗)、糸切り(摩耗)	ヨコナデ、不明	
第11回	SK01	1	土師器 皿(1/4片)	13	9.4	2.9	1~3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	黄灰褐色	やや不良	ナデ(摩耗)、糸切り(摩耗)	ナデ(摩耗)	
		2	土師器 皿(1/5片)	12.6	9	3.2	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	茶褐色	やや不良	ヨコナデ、糸切り(摩耗)	ナデ(摩耗)	
		3	土師器 小皿(1/4片)	8	6.2	1.5	砂粒を含む。	暗褐色	普通	ヨコナデ、糸切り	ヨコナデ、ナデ	
		4	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	
		5	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	
		6	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	
		7	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	
		8	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	
		9	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	
		10	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	
		11	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	
		12	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	
		13	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	
		14	土師器 皿(1/4片)	7	5.2	1.1	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り後板状圧痕	ヨコナデ、ナデ	

表1 SB、SE、SK、pit、SX、SD 出土土器一覧表③

探洞 番号	出土 遺物 番号	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	調整		備考
									外面	内面	
第11回	SK27	1 土師器 皿(2/5片)	12	8	3.1	1~5mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	茶褐色/淡茶褐色	やや不良	ナデ(摩耗)、糸切り(摩耗)	不明、回転ナデ(摩耗)	
*	SK29	1 青磁 埴(底部片)	12	6.2	3	精選されている。	灰色の釉に光沢のある黄緑色の透明な釉がかかる。	良好	施釉、釉をカキ取る	施釉	
*	P09	1 土師器 皿(1/4片)	11.8	8.2	2.6	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	淡茶褐色	やや不良	不明	ヨコナデ	
*	P41	2 土師器 皿(2/3片)	9.4	9.6	1.5	小石が混ざる。砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	ナデ(摩耗)、糸切り	ヨコナデ、回転ナデ	
*	P62	3 土師器 小皿(1/4片)	8	8	1.3	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	淡茶褐色	やや不良	不明、糸切り(摩耗)	不明	
*	P80	4 土師器 小皿(1/2片)	8	6.2	1.3	小石が混ざる。砂粒を含む。	淡黄灰褐色/灰色	やや不良	不明、糸切り(摩耗)	ナデ	
*	P65	5 土師器 小皿(1/3片)	14	7.2	2.3	砂粒を含む。	黄褐色	やや不良	不明、糸切り(摩耗)	不明	
*	P69	6 土師器 皿(1/4片)	21	10.8		小石が混ざる。砂粒を含む。	淡黄灰褐色	不良	不明、糸切り後板付圧痕	不明	
*	P70	7 須恵質 鉢(口縁部片)	13.6		3.2	小石が混ざる。砂粒を含む。	灰色	普通	自然釉がかかる。ヨコナデ	ヨコナデ	
*	P82	8 土師器 皿(4/5片)	8	9	1.4	砂粒を含む。	淡黄褐色	不明	不明	不明	
*	*	9 土師器 小皿(口縁部半分欠損)	14	6.6	2.9	砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、糸切り	ナデ	
*	P79	10 土師器 皿(1/5片)	9	11	1.3	小石が混ざる。砂粒を含む。	黄茶灰褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	
*	SX01	1 土師器 小皿(1/2片)	21	7.8		細砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	不明(摩耗)	不明	
*	*	2 須恵質 鉢(口縁部片)	12.3		2.8	細砂粒を含む。	黄灰褐色/淡黄褐色	不良	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
*	SX02	1 土師器 皿(口縁部1/3欠損)	12	9.6	2.4	砂粒を含む。	茶褐色/淡黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、糸切り(摩耗)	不明	
*	*	2 土師器 皿(1/4片)	8	9.4	1.5	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	黄茶褐色	やや不良	不明、糸切り(摩耗)	不明	
*	SD04	1 土師器 小皿(口縁部一筋欠損)	8.2	6.4	1.5	砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ(摩耗)、糸切り	不明	
*	*	2 土師器 小皿(1/4片)	7.4	6.4	1.5	砂粒を含む。赤粒子が混ざる。	淡黄赤灰褐色	やや不良	不明	ヨコナデ、ナデ	
*	SD07	1 土師器 小皿(1/4片)		6.2		1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。"淡黄褐色"	淡黄褐色	やや不良	不明、糸切り(摩耗)	ヨコナデ、不明	

表2 SX 出土土製品一覧表

探洞 番号	出土 遺物 番号	器種	長さ (cm)	厚さ (cm)	胎土	色調	焼成	備考
第12回	SX02	1 管状土製品(土師)		9	精選されている	淡黄色に内塗が施される	良好	

表3 SE、pit 出土鉄製品一覧表

探洞 番号	出土 遺物 番号	器種	長さ (cm)	厚さ (cm)	焼成	備考
第13回	SE03	1 錠			良好	
*	P25	2 鉄鏝		0.4		
*	P65	3 刀身片		0.6		
*	P59	4 不明鉄製品		0.4		

5 まとめ

福富・六反田遺跡は八女市街地の広がる沖積平野のほぼ中央に位置し、西側200mの所には慶長五年(1600)筑後に入国した田中吉政によって築城され、元和元年(1615)の一国一城令によって廃城になった福島城の外堀が残っている。

今回の発掘調査では、中世の掘立柱建物と建物を取り囲む溝、建物に隣接して井戸が4基、土壇36基、多数の柱穴、溝が発見された。中でも掘立柱建物と建物を取り囲む溝、井戸は中世居館の一部と考えられ、特に井戸からは多くの遺物が出土している。ほぼ東西に二棟配置された建物は規模は大きくないが居館の東端の建物で、調査地区西側には居館の主要な建物が配置されていたと思われる。多くの遺物を出土した井戸は居館外側に4基あり、その内一基(SE04)は途中で掘削を中止している。残りの3基の内2基(SE02, 03)は井戸廃棄後すぐに埋め戻されており、SE01は多量の本、枝等の出土より、廃棄後長期間放置されていたものと考えられる。また、SE03は廃棄後土器等が並べられており、祭祀を行なったものと思われる。

出土遺物はその大半が井戸からの出土で、白磁、青磁、須恵質土器、土師器皿、鉄器(錠)、布(漆塗り)があり、白磁、青磁の中国製輸入磁器は量的には少ない。土師器皿は直径12—13cmと7—8cm程の小皿の2種類がある。SE03から出土した布(絹)には漆を厚く塗った漆部分だけが残っており、烏帽子の一部とも考えられるが全体は不明である。遺物は12—13世紀の特色をもっており、ほぼこの時期に中世居館が存在していたものと考えていい。

12—13世紀の八女は上妻文書から、文治元年(1186)上妻郡の地頭に最初に源頼朝から任命された藤原(上妻)家宗が、上妻郡八ヶ所(今弘・光友・地久志部・豊福・多久万田・北田・境田・岩崎)の地頭職に任命され、13世紀まで代々上妻氏が上妻郡の地頭を勤めている。文永11年(1274)文永の役での恩賞を求めて幕府に提出した『竹崎季長絵詞』中に「筑後の国の御家人みつもの又二郎」は上妻氏の一族で、立花町光友を領した上妻郡の一部地頭と考えられている。このように上妻郡各地には上妻氏の一族の他、一族に仕える武士が各所に居館(居宅)を構えていたものと思われる。平成6年に調査を行なった酒井田・長田遺跡では建物跡と多量の輸入陶磁器が発見された。平成13年に調査を行なった室岡・西山ノ上遺跡では南北約70m、東西約60mの溝で囲まれ、建物や櫓、井戸が発見され多量の輸入陶磁器が出土、平成17年調査の吉泉遺跡でも直線の溝と輸入陶磁器が出土しており、各所に大小の差があるが居館(居宅)が点在しているものと思われる。

参考文献

八女市史編さん専門委員会「八女市史(資料編)」1993

八女市教育委員会「一般国道442号八女筑後バイパス埋蔵文化財調査報告書」

八女市文化財調査報告書第73集 2006

八女市教育委員会「吉泉遺跡」八女市文化財調査報告書第76集 2006

圖 版



(1) 調査前風景 (北東から)



(2) 調査前風景 (南から)



(1) 調査区全景 航空写真



(2) 調査区全景 航空写真



(1) SB01 (西から)



(2) SB02 (北西から)



(1) SB02 (東から)



(2) SB03 (北から)



(1) SE01・02・03 [奥] 04 (東から)



(3) SE01土層断面



(2) SE01・04 [手前] (北西から)



(4) SE01土層断面



(1) SE 02



(3) SE 02



(2) SE 02



(4) SE 02 土层断面



(1) SE 03



(3) SE 03 遺物出土状況



(2) SE 03 遺物出土状況



(4) SE 03 土層断面



(1) SE 03 土层断面



(3) SE 03



(2) SE 03



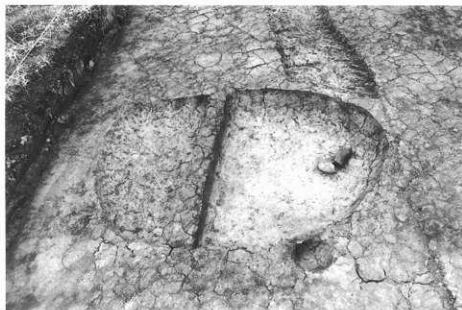
(4) SE 04 土层断面



(1) SK01



(3) SK03



(2) SK02



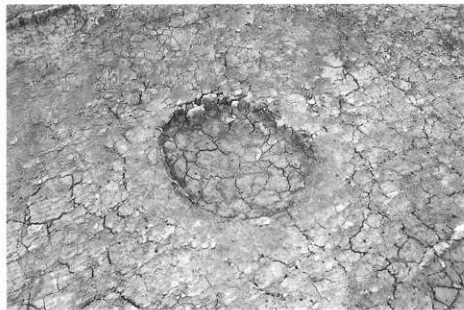
(4) SK04



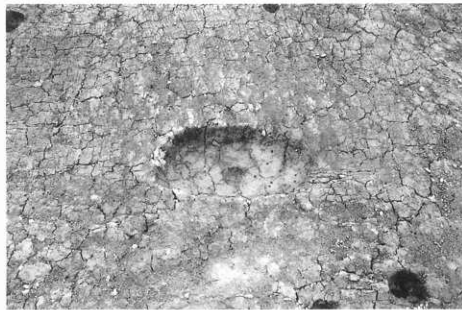
(1) SK05



(3) SK07



(2) SK06



(4) SK08



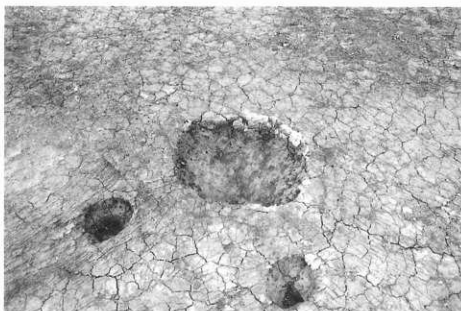
(1) SK09



(3) SK12



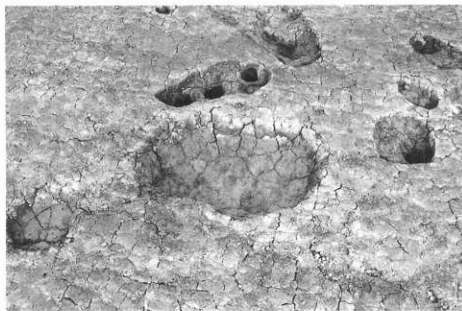
(2) SK10 [右] · SK11 [左]



(4) SK13



(1) SK 14



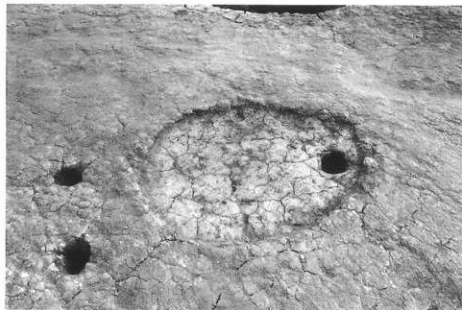
(3) SK 16



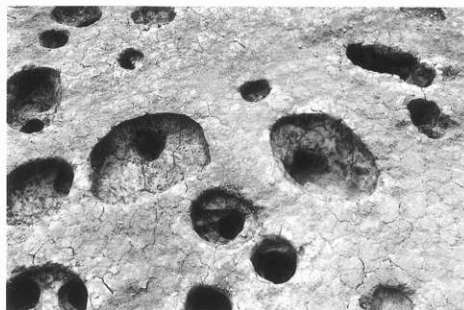
(2) SK 15



(4) SK 17



(1) SK18



(3) SK20 [右] · SK21 [左]



(2) SK19



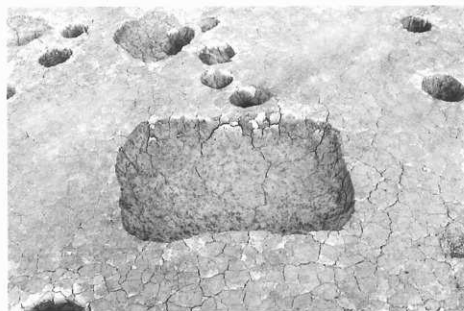
(4) SK22



(1) SK 23



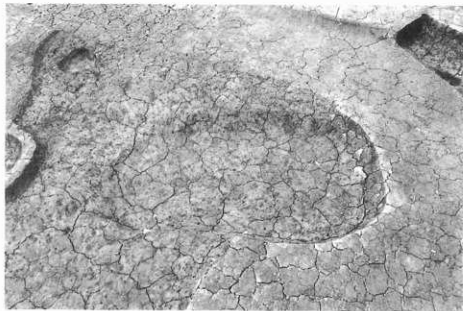
(3) SK 25



(2) SK 24



(4) SK 26



(1) SK27



(3) SK30



(2) SK28



(4) SK31



(1) SK 3 2



(3) SK 3 4



(2) SK 3 3



(4) SK 3 5



(1) SK36



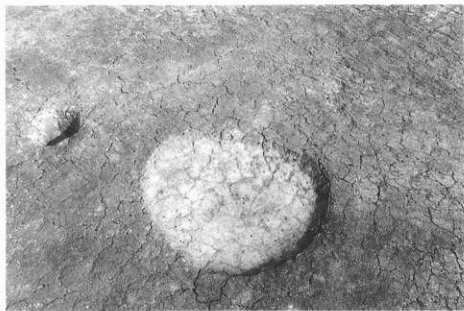
(3) SX02



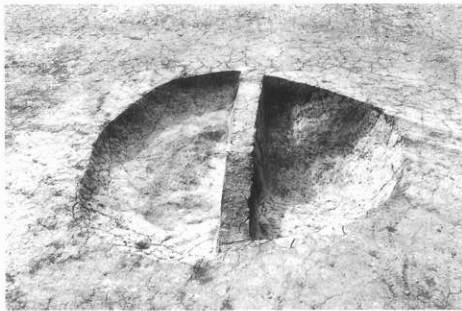
(2) SX01



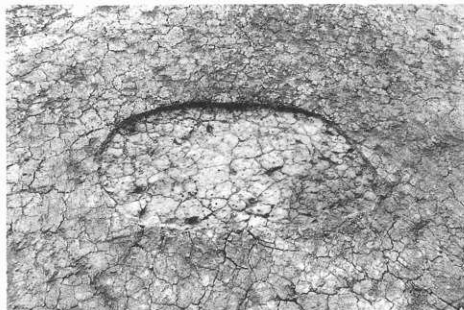
(4) SX03



(1) SX04



(3) SX06



(2) SX05



(4) SX07



(1) SX08



(3) SD02、SK01・02



(2) SD01



(4) SD02銅錢出土狀況



(1) SD07



(2) SD08



(1) SD10、SK35、SX08 (奥)



(2) SD08・09・10・11

報告書抄録

ふりがな	いなどみ ろくたんだいせき							
書名	稲 富・六 反 田 遺 跡							
副 書 名	福岡県八女市稲富所在遺跡の調査報告書							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 85 集							
編 著 者 名	赤崎 敏男							
編 集 機 関	八女市教育委員会							
所 在 地	834-8585 福岡県八女市本町647 TEL 0943-23-1982							
発 行 年 月 日	西暦 2009年 3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド 市町村: 遺跡番号		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
いなどみ ろくたんだ 稲富・六反田 いせき 遺跡	ふくおかけん 福岡県 やめし いなどみ 八女市稲富	402109		33°12'25"	130°33'00"	2007 10 12 ~2008 02 01	約3,000㎡	店舗建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
稲富・六反田 遺跡	集 落 跡	鎌倉時代 江戸時代	井戸 溝 堀立柱建物 竪穴住居 土壌		須恵質土器 土師器 青磁・白磁 銅銭 鉄錠 布(漆塗り) 弥生式土器 石器		「寛永通宝」	



SE03出土布(漆塗)



SE03出土布(漆塗)

稲富・六反田遺跡
八女市文化財調査報告書
第85集

平成21年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647
印刷 (資) 東兄弟印刷所
八女市折袴院563

